



生物園が絶滅危惧種を守る

「絶滅危惧の昆虫展」

小さな生物園の大きな挑戦！

令和8年6月9日 送付枚数：1枚

！ここがポイント！

■身近に起きている「絶滅」を考える

東京都区部のレッドリスト*を見ると、雑木林や草原、水田など、人の手で維持されてきた環境に生息する生きものの多くが姿を消しています（クツムシ、ヘイケボタル、タガメ、ゲンゴロウなど）。生物園では、こうした身近な生きものとの共存を考えることを目的に、「絶滅危惧の昆虫展」を開催しています。

※ 絶滅するおそれのある野生の生きものの種を分類し、一覧にしたリスト

■絶滅危惧種① フサヒゲルリカミキリ

かつては北海道や本州の各地に生息していましたが、現在では、岡山県でのみ野生で生息が確認されているカミキリムシ。生物園では2022年の国内昆虫施設2例目となる羽化成功以降、継続して飼育繁殖を行っています。今年度は6月2日（火）より、金属光沢のある紫藍から緑藍色をした美しい姿を観察できます。

■絶滅危惧種② ツシマウラボシシジミ

国内では長崎県対馬市にのみ生息するチョウ。生物園では2014年より生息域外保全を行い、年3回の繁殖を繰り返し行うことで絶滅を防いでおり、生物園の保全活動を語るうえで欠かせない生きものです。「絶滅危惧の昆虫展」の生体展示だけでなく、7月5日（日）から7月10日（金）（7月6日（月）を除く）までは、大温室で可憐に飛び交う姿を見ることができます。

◆絶滅を防ぐための取り組み

生物園では、「フサヒゲルリカミキリ」「ツシマウラボシシジミ」「アマミトゲネズミ（公開展示は無し）」の3種の生きものについて、環境省と連携して生息域外保全（生物や遺伝資源をその種の生息地外において保全し、それら生物の科学的知見を得るとともに、繁殖して絶滅を回避する取り組み）に取り組んでいます。今回の「絶滅危惧種の昆虫展」では、絶滅の恐れがある昆虫の生体や標本の展示に加え、生きものを守るための法律や生物園の保全活動についてパネルで紹介します。

ぜひ、取材・報道をお願いします。



▲フサヒゲルリカミキリ



▲ツシマウラボシシジミ



▲アマミトゲネズミ

「絶滅危惧の昆虫展」概要

■場所：生物園 2F むしむしコーナー（足立区保木間2-17-1）

■展示期間：5月13日（水）～7月5日（日）

■開園時間：午前9時30分から午後5時まで

■休園日：毎週月曜日

■入園料：①小中学生150円 ②高校生以上300円

③未就学児無料

※ 70歳以上の方・障がいのある方（+介助者1名）は証明書提示で無料



■ 本件に関する問い合わせ先

足立区生物園 責任者 荒牧 広報 大川 ☎03-3884-5577

■ 発信者

政策経営部 報道広報課 報道担当 横井 ☎03-3880-5816 ㊟070-5598-7874